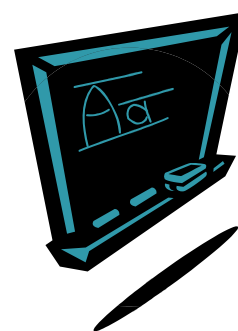


平成 25 年 度

守谷市の学校教育



守谷市教育委員会

守谷の先生方に期待すること

教育長 後藤 光良

「守谷市の学校教育」では、各学校の守谷市の重点課題に対する取組状況や特色ある取組について紹介しています。「小中連携教育」や「マナーアップ推進事業」なども加わり、この14年間の教育界の変遷もわかり、興味深いものがあります。また、最近は、「オリジナルティーチングプラン」も加わり、先生方の独創的な取組にも支援してきています。学校によって若干差はありますが、取組の内容も充実してきています。昨年も記載いたしましたでしたが、教員以外の方にも読まれており、守谷市を訪れた方にも、守谷の学校紹介の資料として配布しているところです。

さらに今年度は、パンフレット「守谷市の学校教育」を作成し、全教職員、全保護者に配布すると共に、多くの市民、外部の方にも見てもらうようにしました。守谷の教育は何をねらっているのか、どこが特色なのか、を市民の方に理解してもらい、さらに、先生方の努力を知ってもらうことをねらっています。特に、「保幼小中高一貫教育」は市民の方も高い関心を示しています。みなさんには保護者や市民の方から質問があった時、ぜひ、実践者として説明してもらいたいと思っています。

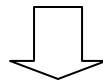
さて、平成25年度は、推進委員会を立ち上げ、「保幼小中高一貫教育」を新たにスタートさせました。タイトルに「守谷市独自の」と入っていますように、守谷市の伝統や状況、この事業をとおして育てたい力などを強調した取組を目指しています。各中学校区の特色ある取組の実践に感謝いたします。大勢の先生方の協力により、平成26年度の準備も整いました。「守谷市の学校教育」のほかに「学びのプラン」「家庭学習のてびき」等のパンフレットも完成しました。その中で、「守谷の子どもたちに付けたい力」を、「生涯にわたって学び続ける力」「ともによりよく生きる力」「英語で話せる力」「情報を活用できる力」としています。パンフレット「守谷の学校教育」を見てもらえば分かるように、1、2ページには学校教育プランの全体図、3ページには教育目標具現化のための5つのプランが示されています。一貫教育推進の目的は、教育目標の具現化であり、世界で輝く人づくりにあります。「付けたい力」はその具体的な内容となっており、先生方に目指してもらいたい取組になります。

また、いうまでもありませんが、一貫教育の重要なねらいに教員の指導力・資質向上があります。本事業の成果は、一人一人の教職員の熱意と市内小中学校一丸となった組織的な取組にかかっています。先生方には、一貫教育導入の意義を十分認識され、これからの子どもたちの成長のために、主体的に取り組んでくださるようお願いいたします。子どもたちの未来のためにともに前進しましょう。

守谷市教育全体図

守谷市民憲章

- ・ 水と緑に親しみ、自然を愛し、美しいまちをつくります。
- ・ 豊かな心を育て、体をきたえ、健康なまちをつくります。
- ・ 教育文化を高め、個性を伸ばし、うるおいのあるまちをつくります。
- ・ 明るい家庭をきずき、きまりを守り、平和なまちをつくります。
- ・ 互いに助け合い、責任を果たし、生きがいのあるまちをつくります。



守谷市総合計画



守谷市の教育目標



茨城県学校教育指導方針

新しい時代をたくましく生きぬく人づくりを目指して

- 1 思考力、創造力に富み、正しく判断して実行する人間の育成
- 2 個性を伸ばし、豊かな心をそなえた、基礎的・基本的な知識をしっかりと身につけた人間の育成
- 3 生涯にわたって、知識や教養を磨き、社会の発展に貢献する人間の育成
- 4 家庭・地域の教育力を高め、互いに助け合い、学び合う人間の育成

社会教育（生涯学習）

共通課題

新しい時代をたくましく生きぬく人づくり

学校教育（基礎教育）

義務と責任を果たす心豊かな人づくりを推進する社会教育

学力と安全と成長を保障する学校教育

生涯学習課事業

図書館事業

給食センター事業

学校教育課・指導室事業

- 1 豊かな生活をめざした学習機会の充実と人材バンクを活用する。
- 2 学校、家庭、地域社会の連携による教育を推進する。
- 3 学習活動の発表の場及び芸術・芸能鑑賞の場の提供と地域交流の拠点としての公民館活動を推進する。
- 4 健康づくりの推進とスポーツ活動の充実を図る。
- 5 郷土愛を深めるため、文化財の保存及び周知を図る。
- 6 放課後子どもプランの充実と児童の安心・安全の確保に努める。

- 1 すべての市民に、気軽にいつでも気持ちよく利用される図書館を目指す。
- 2 市民の知的欲求を保障し、日常生活に生かすため図書館機能の強化とサービスの充実を図る。
- 3 施設や設備は安全に留意して、誰にでも使いやすい図書館を目指す。

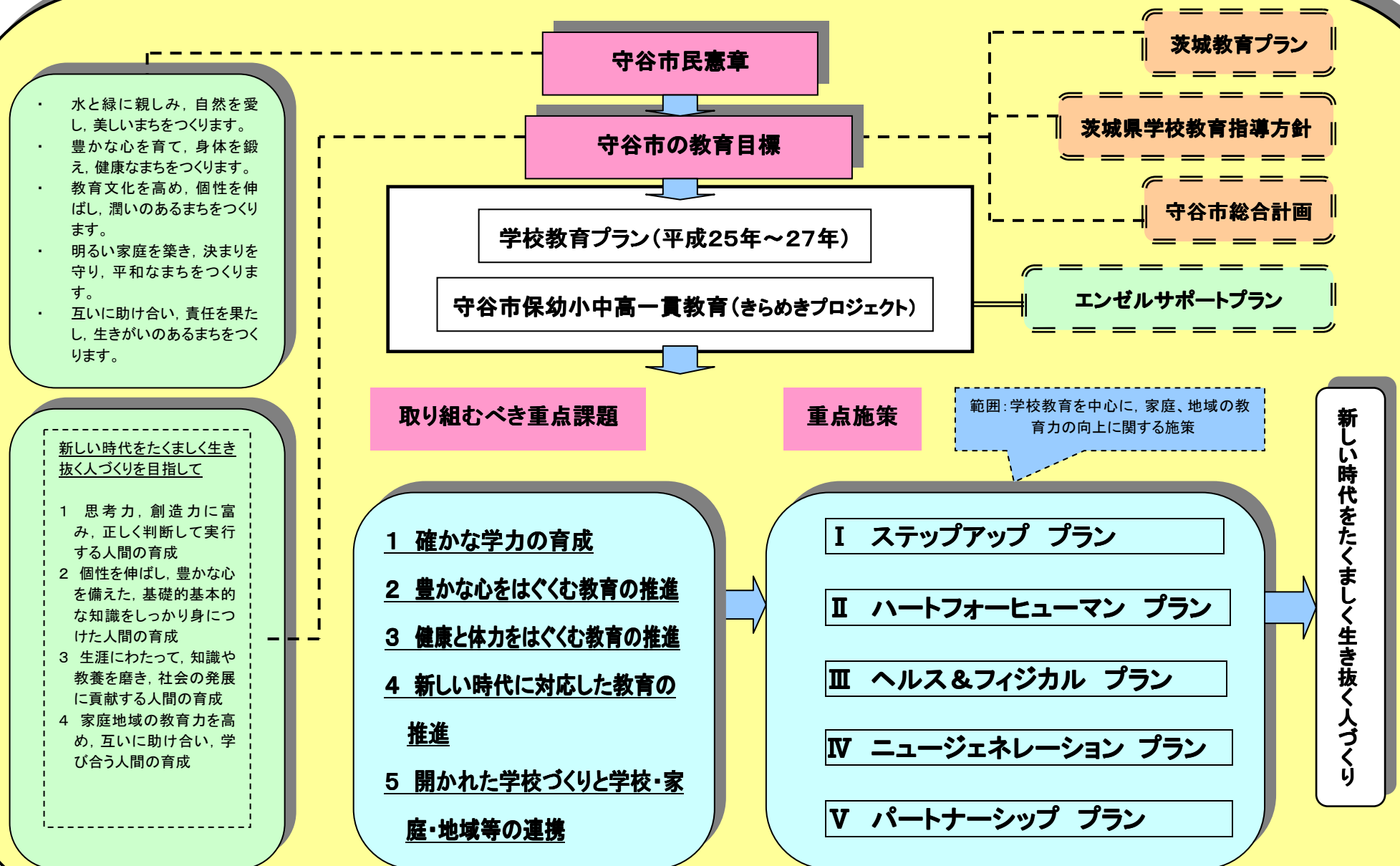
- 1 正しい食習慣の形成、好ましい人間関係の育成、栄養管理と健康増進、食の在り方について教育の一環として給食を実施する。
- 2 学校給食を安全に安定して供給するため、徹底した衛生管理を行う。

- 1 児童生徒が快適な環境のもとで学習できるようにするとともに、登下校時の安全確保や不審者侵入に対する対応等、学校の危機管理体制の確立を図る。
- 2 新しい時代をたくましく生きぬく人づくりを目指し、以下の学校教育プランを推進する。
 - ① ステップアップ プラン
 - ② ハートフォーヒューマン プラン
 - ③ ヘルス&フィジカル プラン
 - ④ ニュージェネレーション プラン
 - ⑤ パートナースhip プラン

平成25年度守谷市学校教育全体構造図

教育プランの目指す教育システム

国の改革に対応するとともに本市の実状を踏まえ、市民の要望に応える「教育施策」を実施することで「家庭・地域発の教育の取り組み」を誘発し、市民自らが子どもの教育に関わっていく教育システムの実現を目指す。



平成25年度 守谷市学校教育プラン

学校は、義務教育9年間を見通し、守谷市保幼小中高一貫教育（きらめきプロジェクト）を推進します。（※ ◎は、守谷市保幼小中高一貫教育推進の柱）

I ステップアップ プラン（確かな学力の育成）

児童生徒に確かな学力を身につけさせることは、学校教育にとって最重要課題であります。確かな学力の育成のためには、児童生徒が自ら学習する喜びを実感して、学び続けることが大切です。学校は学習指導要領に基づき、確かな学力の育成に努めます。また、地域や子どもの実態に応じた特色ある学校づくりを積極的に進めます。

- ◎ 基礎的・基本的な知識の確実な習得と指導法の工夫・改善
- ◎ 言語活動の充実による思考力・判断力・表現力の育成と学習意欲の向上
- 個に応じた教育の積極的な推進
- ◎ 学習習慣の確立
- 特別支援教育の充実
- 読書活動の積極的推進

III ヘルス&フィジカル プラン（健康と体力をはぐむ教育の推進）

子どもたちの体力低下が著しいといわれています。その解決のために、「食に関する指導」や「体力づくり」等の一貫した取組を進め健やかな児童・生徒を育てます。また、子どもたちの安全は教育活動を支える最重要課題であります。安全についての考え方を子どもたちに周知徹底するとともに、安全確保のための万全な体制をつくり、安全安心の学校づくりを目指します。

- ◎ 体力の向上
- 健康教育の充実
- ◎ 危機管理体制の確立と安全教育の実施
- ◎ 食に関する指導の充実

II ハートフォーヒューマン プラン（豊かな心をはぐむ教育の推進）

近年、規範意識や道徳性の欠如等の問題が叫ばれています。こうした問題の解決のため、他人を思いやる心や倫理観、責任感等の育成を図り、心豊かな児童・生徒を育てます。

- ◎ 基本的行動様式の徹底指導と基本的生活習慣の確立
- ◎ 道徳教育の充実と豊かな人間性の育成
- 「ゼロレランス」の考えを取り入れた生徒指導体制の構築
- 一人一人を大切に、明るい社会を築いていこうとする人権教育の推進
- 教育相談体制の充実

IV ニュージェネレーション プラン（新しい時代に対応した教育の推進）

21世紀を生きる子どもたちには、新しい時代に対応した教育が必要です。守谷市においては、子どもたちが自らの力で将来を切り開いていくために必要な、外国語教育・情報教育・環境教育・キャリア教育の充実を図ります。

- ◎ 国際理解教育、外国語教育の充実と英語で話す力の向上
- ◎ 情報教育の推進とコンピュータ活用能力の向上
- 環境教育の推進
- ◎ キャリア教育の推進

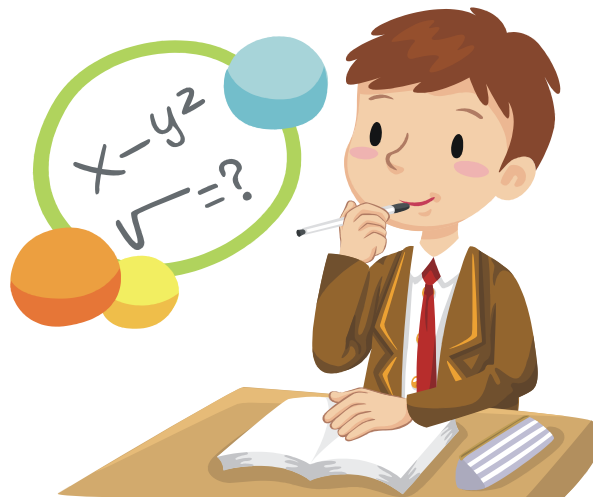
V パートナーシップ プラン（開かれた学校づくりと家庭・地域等の連携）

児童生徒にとって、学校・家庭・地域は大切な学びの空間です。いま、それぞれの独自性を生かしながら連携していくことが望まれています。学校は積極的に情報を公開することで、信頼される学校づくりを進めるとともに、家庭・地域と連携し、みんなで子どもたちを育む教育のシステムづくりを推進します。

- ◎ 地域社会への授業公開と積極的情報発信
- 特色ある学校づくりの推進
- サポートチーム（生徒指導連絡協議会）による生徒指導体制の充実
- 地域ボランティアとの連携による登下校時の児童生徒の安全確保体制の確立
- ◎ 「学校運営協力員会議」の充実と学校評価の活用

守谷市保幼小中高一貫教育

各校の特色ある取組み



平成 2 5 年度守谷市小中学校研究主題一覧

学 校 名	教科・領域	研 究 主 題
大井沢小学校	国語科	自ら学び考える児童の育成 ～国語科における言語活動を充実させた学習指導の工夫改善～
大野小学校	算数科	自分の考えをもち、自分の言葉で表現できる児童の育成 ～算数的活動の充実を通して～
高野小学校	全教科	思考力・表現力を育てる授業づくり
守谷小学校	算数科	学習課題の工夫や発問の精選を通して、数学的な考え方、 表現力の向上を図る指導法の研究
黒内小学校	全教科	表現力が育つ指導法の工夫
御所ヶ丘小学校	国語科	思考力・判断力・表現力をはぐくむ国語科学習指導の在り方 ～「読むこと」における単元を貫く言語活動の充実を通して～
郷州小学校	全教科	言語活動を充実し、思考力・判断力・表現力を高める指導の工夫 ～書くこと、伝え合うことを中核として～
松前台小学校	国語科	自分の思いや考えを表現できる児童の育成 ～国語科の指導を中心として～
松ヶ丘小学校	全教科	自ら考えをもち、互いに学び合うことのできる児童の育成 ～各教科における言語活動の充実をめざした授業作り～
守谷中学校	道徳	人間としてのよりよい生き方を見つめる道徳の時間の在り方 ～自己を見つめ、道徳的価値の自覚を深める指導法の工夫～
愛宕中学校	全教科	生徒一人一人の学力向上を目指す指導方法の工夫 ～学び合う学習集団を育てるための取り組みを通して～
御所ヶ丘中学校	全教科	思考力・判断力・表現力を育てる授業の工夫 ～ユニバーサルデザインの視点を取り入れて～
けやき台中学校	全教科	主体的に考え、表現しようとする生徒を育成する学習指導 の在り方 ～各教科における言語活動の充実を通して～

特色ある学校づくり推進事業

守谷市立大井沢小学校

1 はじめに

本校では、教育目標である「豊かな心をもち、たくましく生きる児童の育成 ～子どもが主役で、安心して生活できる学校を目指して～」を達成するために、学力の向上、豊かな心の育成、体力の向上に取り組んできた。具体的には、職員が〈知〉〈心〉〈体〉の三つのプロジェクトチームに分かれて、それぞれのチームが中心になって、各事業を進め、各行事、校内活動の充実を図りながら実践してきた。

2 実践

(1) 学力向上のための取り組み＝「自ら学び考える子」の育成：〈知〉プロジェクト

- ア 毎朝の「わくわく授業」の充実（朝の20分間、読書、読み聞かせ、ドリルなど）を図った。
- イ 県学力診断テスト、全国学力学習状況調査の結果をふまえて、本校独自の「ステップテスト」（国語、算数）を毎月実施した。
- ウ 言語活動の充実とユニバーサルデザインを意識した「わかる」授業の展開するための、校内研修を行った。
 - ・校内授業研修（7月17日、4年1組、小野教諭）
 - ・校内研修（8月2日、講師：松ヶ丘小、奈幡教頭先生）
 - ・要請訪問（10月30日、公開授業：5年2組、和知教諭、講師：指導室 長塚先生）
 - ・要請訪問（2月17日、公開授業：1年4組、柴崎教諭、講師：指導室 長塚先生）
- エ 授業でいかすことのできる家庭学習を推進した。（「家庭学習の手引き」の下じきの活用）
- オ 読書活動の充実（年間50冊以上、本を読む児童数が80%以上）
- カ 教科担任制を取り入れた授業の展開した。（6年→社会、理科、音楽、図工／家庭、書写）
（5年→社会、理科、音楽、図工／家庭、書写）
（3・4年→音楽、書写）
- キ 少人数指導、TTによる授業を行った。（全学年の算数）
- ク 特別支援教育の充実を図った。（御所ヶ丘中学区インクルーシブ教育システムの構築）



(2) 豊かな心育成のための取り組み＝「思いやりのある子」の育成：〈心〉プロジェクト

- ア 楽しいと思える道徳の授業の展開に努めた。
道徳ゲストティーチャーによる道徳の授業（12月9日、5・6年生の道徳の授業、講師：プロサッカー選手 豊嶋さん）
- イ 道徳の教育活動における一般化を図るための場を設定した。
（道徳通信「こぶし」の発行、道徳コーナー「ぼっかぼっか広場」の充実等）
- ウ 「自分を磨く八つの心得」の日常化を図った。「自分を磨くためのアンケート」の実施した。
- エ 「こぶしタイム」（縦割り活動、遊び）を実施した。
- オ 児童を前面に出した「ふれあいコンサート」を実施した。（12月12日）
- カ 各学年ごとに「いいとこさがし」を実施した。
- キ 「江戸しぐさ」→「守谷しぐさ」→「大井沢しぐさ」の実践。
- ク 毎月1週間、「無言清掃強化週間」を実施した。
- ケ 気持ちのよい挨拶の習慣化を図った。（年間を通じてあいさつ週間や、小中合同のあいさつ運動を実施した）
- コ 読書を奨励した。（朝読書、ボランティアによる読み聞かせ）
- サ 人権教育を推進した。（人権集会、人権メッセージカード、人権教室を実施した）



(3) 体力向上のための取り組み＝「たくましい子」の育成：〈体〉プロジェクト

- ア 体育の授業を要とした、体力づくりの日常化を図った。（新体力テストA+Bの割合が50%以上の学年が、男女別で4から7に向上した）
- イ 体育的行事（運動会・持久走記録会・なわとび記録会等）の充実を図った。

- ウ 体力向上のために、体育委員会を中心に、業間休み、ロング昼休み等を活用した。
- エ 新体力テストを実施、分析、活用した。
- オ 学年に応じた保健安全指導の充実を図った。（交通安全教室、栄養教諭による「食」に関する指導、養護教諭と連携した「命」に関する指導を行った）
- カ 学校保健委員会を開催した。（8月1日、2月19日）

3 考察

（1）学力向上のための取り組みについて

- ・ 児童に対してのアンケート調査では、「授業が楽しい」と答えている児童は、全体の52%であった。「どちらかといえば楽しい」答えている児童を加えれば、91%になるが、子どもが楽しいと感じるような授業の展開という点で、まだまだ工夫改善の必要があることがわかった。
- 教科担任制の授業については、「よい」と答えている児童が33%、「どちらかといえばよい」と答えている児童が54%であった。学力診断のためのテストの結果からも、成果が上がってきているので、さらに内容を充実させていきたい。
- 少人数指導については、「少人数指導でわかるようになった」と答えている児童が39%、「どちらかといえばわかるようになった」と答えている児童が38%であった。ことらも成果が上がっているので、さらに内容を充実させていきたい。

（2）豊かな心育成のための取り組みについて

- 児童に対してのアンケート調査では、「友だちのいいところを見つけられた」と答えている児童が、全体の50%。「どちらかといえば見つけられた」と答えている児童が、39%であった。友だちや、自分の周りの人たちに対する気持ちが育っていることがわかった。
- ・ 「無言清掃」については、「できる」と答えている児童が27%、「どちらかといえばできる」と答えている児童が57%であった。掃除の仕方も含めて、さらにていねいに指導していきたい。
- あいさつについては、「自分からあいさつができる」と答えている児童が50%、「どちらかといえばできる」と答えている児童が39%であった。昨年度よりも、あいさつができるようになってきているので、場に応じた声の大きさや言葉遣いなども含めて、さらに指導を充実させていきたい。



（3）体力向上のための取り組みについて

- 新体力テストA+Bの割合が、50%以上の学年が、昨年度は4つであったが、今年度は、1年男女、2年女子、4年男女、5年女子、6年女子の7つに向上した。年間と通して、継続的に取り組んだことが体力の向上につながったと考えられるので、さらに内容を充実させていきたい。
- ・ 給食委員会による「完食調べ」では、給食を完食している児童は48%であった。丈夫な体を作るためにも「食」に関する指導を、さらに充実させていく必要があると感じた。



4 課題

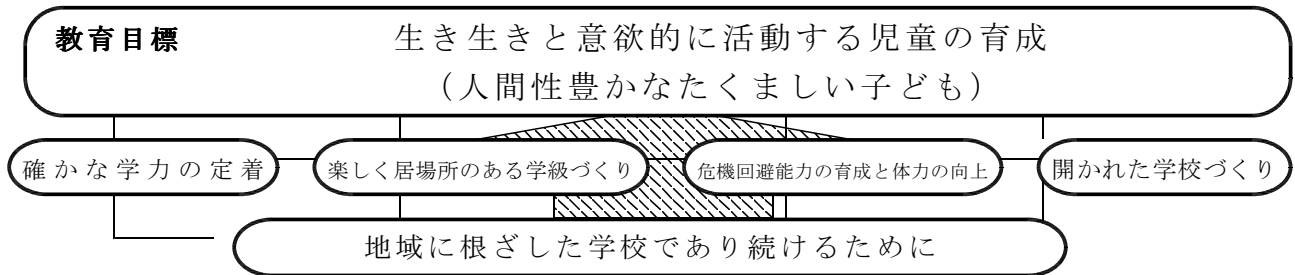
- （1） 3つのプロジェクトに分かれて進めたことで、各教師の専門性がいかされ、各事業、各行事についてより深く検討できるようになった。その結果、各事業の内容の充実が図られ、児童の指導にいかすことができたので、各プロジェクトでの話し合いを、さらに充実させていくとともに、プロジェクト間の連携も深めて、一つ一つの事業の内容を高めていきたい。
- （2） 御所ヶ丘中学校や御所ヶ丘小学校、松前台小学校との連携や、家庭・地域との連携、外部の人材の活用などを積極的に進め、大井沢小学校のよさをいかしながら、さらに特色ある学校づくりを進めていきたい。

地域に根ざした学校であり続けるために

守谷市立大野小学校

1 はじめに

大野小学校は、学校・家庭・地域の方々との双方向性の高い心の交流を土台とし、地域と保護者、教職員がひとつになって、「生き生きと意欲的に活動する児童の育成」を目指している。一人一人の子どもが楽しい居場所として感じられるような学校の中で、地域との連携を通して、人間性豊かで進んで学ぶことができる子どもを育てていきたい。



2 実践

地域の方々に協力をいただきながら教育活動を充実させ、児童に地域のよさに気付かせたり、たくさんの人と関わらせたりする活動を通して、大野地区に誇りをもち、自らの夢や希望を育んで、人間性豊かなたくましい子どもを育てていきたいと考えている。「地域に根ざした学校であり続けるために」、大野地区の方に教育活動に対する協力をよびかけ、以下のような活動を行った。

(1) 米づくり体験学習

本校では、1年間を通して4年生を中心に全学年が関わる米づくり体験学習を行っている。大野小協力の会をはじめとして、保護者、PTA役員、地域の方々、大野地区田園環境保全活動組織（EPOP）等、多くの方の協力により活動を進めている。

この活動は、地域の人との交流を深め、大野地区の環境について学習するとともに、食についての関心を高めるなど、幅広いねらいをもったものである。種まき（1・2・4年生）→田んぼリレー（4年生）→田植え（4・5年生）→草取り（4年生）→稲刈り・おだ掛け（4・6年生）→脱穀・粃すり（3・4年生）→収穫祭〈餅つき〉（全児童）という一連の活動を全児童、保護者、地域の方々とともに行っていくことで、地域のよさや特色を再確認できる活動である。



田んぼリレー



稲刈り



収穫祭（餅つき）

(2) 登下校時の見守り

登校時はボランティアの方が毎朝登校班の付き添いを行っているが、下校時は児童だけの下校になってしまうことが多かった。そこで、今年度は、PTAの校外指導委員会が中心となり、低学年の下校時に、全家庭の協力を得て毎日児童に付き添った。また、下校時の児童の安全をさらに強化するために、地域への文書の回覧等を通して、下校時の見守りボランティアを募った。PTAの常任委員会や学校運営委員会、民生委員や児童委員との話し合いでも現状を説明した。そ

の結果、下校ボランティアとして十数名の地域の方の協力を得ることができた。今後も、地域をあげて登下校時の児童の安全を確保する体制をつくっていくことで、児童の安全な登下校の強化とともに、大野地区のよさを実感させていきたい。



登校ボランティア



下校ボランティア



ボランティア会議

(3) 縦割り班活動



いもの苗植え

児童の社会性や思いやりの心を育てるために、今年度から縦割り班活動を実践することになった。縦割り班活動では、昨年度実施できなかった学校農園でのさつまいも栽培を中心に活動をした。この活動においても、畝づくりや畑の管理など地域の方とも連携した活動になった。収穫したさつまいもは、収穫祭でPTAの協力により、焼きいもにして全児童で味わった。地域の特徴を生かしながら、次年度は活動内容についてさらに充実・工夫させ、児童同士や地域のよさやつながりをさらに実感できるような活動になるよう調整していきたい。

(4) 地域の教育力を生かした学習活動

大野地区で育った子は、ほとんどが守谷中学校に進学する。高学年になるにつれて子どもたちにとっての地域も広がってくる。来年度から完全実施される「きらめきプロジェクト」も地域の特性や教育力を生かしながら、単学級で育った子どもたちが、大きな集団の中でもたくましく活動できるような力を育てる取組と捉えることができる。今年度は、小中の交流活動の充実に取り組んできた。インタラクティブフォーラムへの6年生の参加、学びの広場での中学生の協力、中学校の吹奏楽部の出前演奏、小中合同あいさつ運動、中学校の先生の出前授業など、一つ一つの交流活動を見直しながら取り組んだ。今年度検証したことを次年度に生かしていきたい。

また、タグラグビーのGTや校外活動での保護者の協力、防災教室の講師、和楽器の演奏など、今年度も地域の教育力を生かしたこれまでの取組を継続して、学習活動を進めてきた。地域の教育力を生かした学習活動をさまざまな場面で充実させて、人間性豊かな児童の育成に努めていきたい。



中学生の母校訪問



防災教室

3 成果と課題

地域の方々とののかかわりを通して、子どもたちには少しずつ思いやりの心が育ち、自ら進んで他に関わっていこうとする姿が見られるようになるなど、その成果が表れてきている。多くの方々の協力をいただき、1年間を通して取り組んでいる米づくりや地域の力を生かした取組は、本校において重要な位置を占める教育活動である。地域とのつながりを大切にしながら、今後も「地域に根ざした学校であり続けるために」を念頭に置き、地域全体の力で児童の育成に努めていきたい。

特色ある学校づくり【校内研修を通して】

守谷市立高野小学校

1 はじめに

本校では、「未来を生きるたくましい子どもを育てる」を教育目標に掲げ、学力の向上・豊かな心の育成・健康な体の育成に努め、知・徳・体のバランスのとれた児童の育成を目指している。学力の向上に関して、主に基礎・基本の徹底、読書活動の推進、外部人材による体験活動の充実などに取り組んでいる。

基礎・基本の徹底の取組の一つとして、校内研修では、家庭学習の充実、学びの時間の設定、授業研究を行ってきた。

また、昨年度より「思考力・表現力を育てる授業づくり」を研修テーマとし、児童の実態を分析したブロックテーマを設け、テーマに迫るための手立ての工夫を図った授業の実践に取り組んできた。

2 実践

(1) 家庭学習について

○家庭学習時間【学年×10分以上】

○各学年ごとにマニュアルを作成する。

○家庭学習はドリル学習と自主学習の2本立てとする。【基礎学力の定着がねらい】

①ドリル学習（漢字・計算）【2回実施を基本とするが、児童の実態に応じて行う】

②自主学習【徐々に毎日できるようにしていく】

・発達の段階に合わせて、系統性（週末→週に数回→毎日）をもって進めていく。

(2) 学びの時間について *算数に限らず、各学年で必要とされる学習を行う。

基礎学力の定着、全体レベルアップを目的とし、毎月第4・5水曜日の6校時の裁量の時間に実施した。指導は下表の通り全職員で行った。内容は、プリント問題（補充・基礎基本・応用・発展）、計算ドリルを活用した。あらかじめ学習内容を自己選択し、自己採点することを原則とした。担当教師がつまづいている児童を中心に指導できるようにするため、内容や習熟度で学級の枠を外したグループ分けを実施した。

【全職員で行う「学びの時間」】

		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
担当	学級	担任・副担任			担任 第1学年職員	担任 第2学年職員	担任 第3学年職員 音楽主任
	支援				さくら担当	少人数担当・教務	ひばり担当

(3) 校内研修テーマ：「思考力・表現力を育てる授業づくり」

○低学年ブロックテーマ：「自分の言葉で、話す・書く能力を育てる学習活動できる子どもの育成」

○高学年ブロックテーマ：「情報を活用し、自分の考えを伝え合いながら、考えを深める学習活動の工夫」

<学年の職員全員で取り組む授業>

全学年で研究授業を実施した。研究授業は、まず学年のブロックで内容を検討し、当該学年の職員全員が事前授業を行った。授業の反省を行い、授業の改善を加え、学年代表が提案授業に臨む取組とした。

【1学年】具体物や図・式・言葉などを使って自分の考えを書いたり話したりできる子どもの育成

○算数「ずをつかってかんがえよう」

自分の考えを図で表したり、話したりする活動を経験させることを通して、表現することに慣れ、自分の考えを話すことができる子どもを育てるための手立てを工夫した。今回の授業では、具体物（ブロック）を使用して自力解決を図る活動を取り入れた。また、自分の考えを図でかく指導や自信をもって表現できるための型と支援の仕方に工夫をした活動を行った。



【2学年】具体物や図・式・言葉などを使って自分の考えを説明できる子どもの育成

○算数「100より大きい数」

自分の考えを書いたり話したりする活動を経験させることを通して、表現することに慣れ、自信をもって自分の考え方を説明することができるよう手立てを工夫した。今回の授業では、「自分の考えを書く」ノート指導の工夫や、自信をもって表現するために型と支援の仕方を定型化した指導を取り入れ、ペア学習を中心にした「自分の考えを説明することができる」活動を行った。



【3 学年】図・言葉・式を使って自分の考えを説明できる児童の育成

○算数「二等辺三角形と正三角形」

自分の考えを書いたり話したりする活動を通して、表現することに慣れ、自信をもって自分の考えを説明することができる児童を育てるための手立てを工夫した。今回の授業では、自分の考えを伝えやすくするために、具体物（ストロー）を活用した。また、小グループ活動にすること、付箋を利用することで、自分の考えをより自信をもって伝えることができるようにした。



【4 学年】情報をもとに互いの考えを交流し深める社会科学習の工夫

○社会「水はどこから」

児童が考えを交流できる学び合いの場を取り入れ、情報を的確に読み取って考えを深めたり、資料を根拠にして自分の考えを伝えたりする方法の基礎を身に付け、自信をもって表現できるよう手立ての工夫をした。今回の授業では、守谷市の水についてまとめた自作資料を、電子黒板やプリントで活用した。そして小グループによる話し合いの場を、学習活動の資料の読み取り段階と課題追究段階に取り入れた。また、資料を根拠にして自分の考えを伝える話し方を定型化して行った。



【5 学年】自分の考えを伝え合って情報を共有し、科学的な思考力・表現力をはぐくむ理科学習の工夫

○理科「もののとけ方」

児童が自ら得た疑問や気づきを生かしながら観察・実験活動を設定し、その中で自分の考えを互いに伝え合って共有することで、児童の科学的な表現力をはぐくむことができるような手立てを工夫した。今回の授業では、観察・実験を半分のグループに分けて学年 TT の指導体制をとり、一人一人への技能向上を図った。また予想を立てた理由や考察の文型をワークシート内に設け、思考力・表現力の育成の手立てとした。児童の疑問を生かした学習課題の設定、予想、実験方法の立案など学習過程を工夫した。



【6 学年】資料を活用し、自分の考えをもって互いに考えを交流し合う社会科学習の工夫

○社会「陸奥宗光はどのような願いをもって条約改正に取り組んだのだろうか」

児童が資料を活用し、自分の考えを書いてまとめ伝え合う場を工夫し、互いに考えを交流し合うことができるような手立てを行った。今回の授業では、児童が自分の考えをインタビュー形式で発表し合う場を設定し、意見の交流をしながら考えを深めていった。その際、ノルマントン号事件など豊富な資料を用意したり、ワークシートを活用したりして、自分の意見をまとめやすくなるような工夫を取り入れた。



【ひばり学級】考えることや言葉で伝え合うことが楽しくなるような体験を通して、聞く力や話す力を育む

○生活単元「友だちとなかよく作品をつくろう」

つばさ展の作品づくりの作業の手順などを視覚的に示し、見通しをもてるようにした。また、少しずつ自分の思いを相手に伝えることができるように、日頃から小集団において話を聞く・話すことやルールを守る練習を取り入れてきた。同時に人とかかわる喜びを味わうなど対人関係の基礎を養ってきた。活動グループや座席は、相性や個人の生活面での課題を考えて編成した。



3 成果と課題

授業計画を学年やブロックで練り上げることで、学習課題や内容を吟味することができ、授業の質の向上を図ることができた。日常の授業では、児童が自分の意見を発表することに躊躇する場面が減り、互いの考えを交流することで少しずつ考えを深める力を付けてきていることが成果となっている。

これからは、研修内容を児童の実態に合わせ、教科・領域を絞り、引き続き質の向上を図った授業展開を行っていきたい。また新しい道徳の授業・評価を学ぶ機会、個に応じた指導の充実、TT指導と少人数指導のあり方、外部人材の活用についても今後の課題となった。

特色ある学校づくり推進事業

～教科担任制による理科学習指導を通して～

守谷市立守谷小学校

1 はじめに

本校では、昨年度より5, 6年生の理科において教科担任制を実施している。県の学力診断のためのテストの結果を分析すると、科学的な思考に関する問いでの正答率が低かったり、用語を混同しているための誤答が多いという傾向がみられる。そこで、結果を自分の言葉で表現したり、結果をもとに話し合ったりする活動と「表現に必要な科学的な言葉」の定着がより必要であると考え、実感を伴った理解を図るための言語活動を工夫し、科学的な思考力・表現力を高めていく学習指導に取り組んだ。

2 実践

(1) 実感を伴った理解を図るための工夫

観察や実験は10班編制にして、少人数で行えるようにした。そのための器具や教材（自作の実験器具、植物の栽培など）の充実に努めた。

単元の最後に「もの作り」や発展問題を行い、生活に生かせる理科学習を目指した。

(2) 結果の効果的な表現

文章で表現することもあるが、比較検討しやすいように表や図などでの表現も積極的に取り入れた。この際、事実のみを書くことを確認した。結果は全体で共有し、正確な結果を出せなかった班が考察の参考にできるようにした。

(3) 児童が自らの力で表現できる考察の工夫

問題解決型の授業展開により、「予想、仮説をもつ」「結果を整理する」「考察し、発信する」というそれぞれの段階で自分の考えをノートに書かせた。考察では、「～が～になることを～を使って調べたら、～になった。このことから～といえる。」という書き方のフォームを示し、仮説に対比して自分の考えを推論したり、問題と対になるように結果から結論を出したりできるようにした。次第に自分のスタイルで考察できるようになった。

(4) ノートの活用

問題解決の過程が見えるように板書の構成とノートの記入のしかたを工夫した。手引書をもとに、学年の最初に理科のノートの基本的な使い方を確認して、きれいで見やすく使えるように指導した。また、ノートは、ひとつの観察や実験で見開き2ページを使用し、学習内容や思考の流れがわかるようにした。

毎時間ノートを提出させ、その時間の学習に対する評価とコメントを書くようにした。それにより、教師は児童一人ひとりの思考過程や理解度を確認できた。また、児童の疑問を次時に取り上げることもできた。児童は評価により自分の達成状況を知り、教師のコメントを読んでさらに学習を深めたりできた。

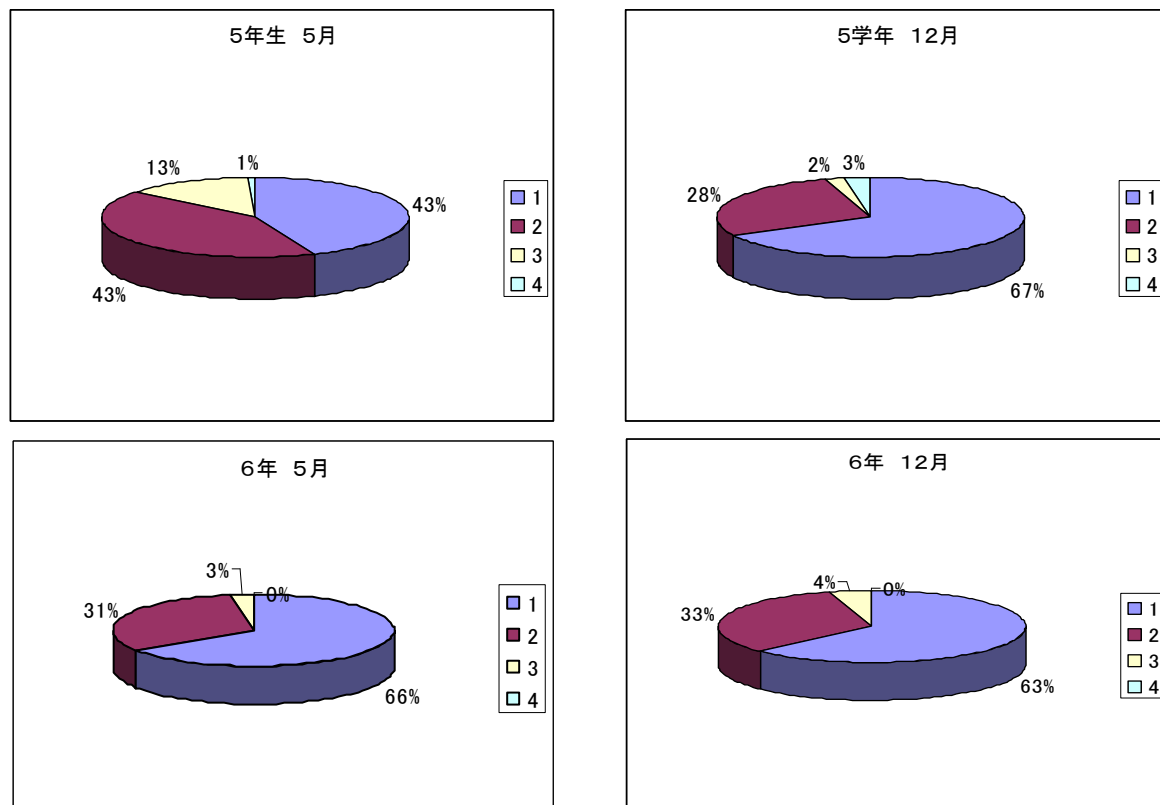
(5) 「表現に必要な科学的な言葉」の定着

単元の最後に資料集の問題（理科教育支援資料集の活用）を行うことにより、観察・実験を振り返りながら、「表現に必要な科学的な言葉」を確認した。

3 考察

(1) 理科の学習に対する意識の変容

5年生の5月と12月に行ったアンケートの結果によると、「理科の授業でわかったことを、自分の言葉でノートにまとめています。」と答えた児童の割合が増えた。6年生での増加はなかったが、約97%の児童ができていると答えている。



< 1 あてはまる 2 だいたいあてはまる 3 あまりあてはまらない 4 あてはまらない >

(2) 児童のノートの変容

どの学年の児童も自分の言葉で考えを表し、またわかりやすく図などを用いて表現することができるようになってきた。記述の量も年度当初に比べ増えてきた。また、予想を立てる場面では、既習内容や日常経験をもとに、根拠をもって予想（仮説）を立てている児童が増えてきている。

4 課題

- (1) わかったことを自分の言葉や絵でまとめることができるようになってきた。今後は、学級の中のグループや学級全体での話し合いにより、①いろいろな考えや意見があることに気づく②それらの考えには、根拠や前提条件に違いや特徴があることに気づく③それぞれの考えの異同を整理して、さらに自分の考えや集団の考えを発展させることが繰り返されることにより考察が深まっていくように指導していきたい。
- (2) 専科教員と学級担任との打ち合わせの時間をより多く確保し、ティームティーチングを通しでの相互研修を深められるようにしたい。また、校内研修の充実も図りたい。

特色ある学校づくり推進事業

守谷市立黒内小学校

1 はじめに

本校では学校教育目標である「豊かな心をもち、自ら行動できる子の育成」を達成するために、一人一人の児童が輝く場をもつことができる活力ある学校づくりを重点課題として教育活動を推進している。その具体策のひとつとして、教科担任制授業を進めるとともに、体験型学習活動の積極的な導入を図っている。

2 実践

(1) 専科における教科担任制（理科・音楽）の一部導入

ア ねらい

- ・主に小学校高学年に教科担任制による授業を実施し、中学進学時の生活面や学習面での変化を少なくし、いわゆる中一ギャップの解消の一助とする。
- ・専門性を生かした授業を行うことにより、児童の興味・関心を喚起するとともに、学力向上の一方策とする。また、専科教諭を中心とした授業研究を行い、学校全体の教師の授業力の向上を図る。
- ・科学研究作品展や市音楽会等で児童の参加を活発にするとともに、質の向上を目指す。

イ 実践内容

【理科における5, 6年生での実践】

観察・実験を授業の中心におき、普段の学習を進めるとともに、論理的な言語活動を重視した授業を構成している。

観察・実験に関しては市販の教具や教材の活用をできるだけ少なくし、身の回りの素材から作り出すとともに、1人1実験が可能になるように心がけた。

また、場の構成として授業は理科室で行うことを基本とし、日課に応じて教室を移動し、時間を守って授業を受ける中学校のスタイルを取り入れている。

さらに、観察・実験後、自己解決から小集団、学級全体と考察の仕方を意識的に仕組むとともに、ノート記述を重視することで論理的な思考の育成を図った。これにより学習内容の活用の面で成果が上がっている。

【音楽における2～6年生での実践】

2年生から6年生まで、それぞれの発達段階に応じた活動内容を構成し、表現、鑑賞の観点及び共通事項を繰り返しながら継続的に指導することで、音楽的な技能や感性が徐々に身に付くようにした。

表現活動では、グループで話し合いながら表現の工夫をしたり、様々な楽器にふれる機会を設けたりすることで、児童の関心を高めるようにした。また、学び合いや反復学習を多く取り入れたことで、基礎的な技能の向上につながった。

(2) 体験型学習活動の充実

ア 体験型学習活動の中核を成す「黒内まつり」親子体験学習の実施

文化・芸術・自然科学等様々な分野の専門家を招聘し体験学習を行うことで、児童の興味・関心を広げるとともに、地域や家庭での教育力向上を図ることを目的として、毎年11月上旬に「黒内まつり」親子体験学習を行っている。

この活動では、地域人材を活用することと併せ、平成23年度より県教育委員会指定の「理科教育推進事業モデル校」を受けたことを機に、自然科学分野での体験活動の拡充を図ってきた。本年度は児童数の増加も伴い体験活動数としては最大の15ブースを設定した。



5年電磁石づくり



ノート記述及び意見交換



学び合いを大切に
する授業形態の工夫

【平成25年度の体験学習活動の実績 ※新入学児童対象実験教室も併せて実施】



守谷中美術部ワークショップ



凧づくり



フラワーアレンジメント



わら細工づくり



竹トンボづくり



アルミロケット飛行物体



飯盒炊さん



缶ぽっくりづくり



竹水鉄砲づくり



紙飛行機づくり



勾玉づくり



科学実験教室



化石標本づくり



冷熱実験 他



ソバ打ち体験



新入学対象実験教室

イ 総合的な学習の時間のカリキュラムの見直しと実施状況

これまで、食育教育を中心に学年ごとに題材を設定し、総合的な学習の時間を進めてきた。本年度はこれを見直し、次のような学習テーマを設定し、体験活動を重視した学習計画を立て実践している。



3年：学区調査をもとにした地域学習



4年：様々な福祉体験をもとにした福祉学習



5年：水田、米作り体験をもとにした環境学習



6年：キャリア教育の一環としての「仕事の話の聞く会」

3 成果と今後の課題

現在の学力観においては、基礎・基本の定着とその活用力の育成が重視されている。本校では、普段の授業において、専門性を活かした分かりやすい授業の展開や反復学習の推進により基礎・基本の定着を図り、そこで得た知識を体験的な学習活動において活用していくことで実感を伴う理解が深まり、確かな学力が得られると考える。また、これにより子どもたちの学習内容に対する有用感や「もっと学びたい」とする学習意欲の喚起が図れていると考える。

今後も、学校の様々な学習活動をさらに見直し、学習内容の定着と活用が両輪となって、子どもたちの学力向上が図れるよう、教育活動を進めていきたいと考える。

保護者や地域に学ぶ ～学校支援ボランティア・地域人材の活用を通して～

守谷市立御所ヶ丘小学校

1 はじめに

本校の今年度重点目標は、「児童が主役の共通認識のもと、創意工夫のある教育活動を展開し、豊かな心と確かな学力を育成する」である。目標達成に向けて2つのキーワードを掲げ、それを核として教育活動を計画、実践してきた。

1つ目のキーワードは「児童が主役」である。児童一人一人が学校生活の中で瞬間的にでも輝き、存在感、充実感を得られるようにすることを目指してきた。

2つ目のキーワードは「助け合う」「引き受ける」「声をかけ合う」「いたわる」の「思いやり算」である。各学級において道徳や体験活動の充実努め、豊かな心の育成を図ってきた。

教育目標の実現は、学校だけの力では限界がある。そこで、教育活動の実践にあたり、保護者や地域の教育資源を有効活用できるよう工夫し、取り組んできた。

2 実践

(1) 学習ボランティア

① 募集にあたってのねらい

保護者や地域の方々に自分の特技を生かし学習活動の補助に入ってもらうことで、児童一人一人に対してきめ細かな支援が可能となり、「児童主役」の学習活動を確保することが可能となる。

② 内容

ア 金管楽器指導の補助

運動会での高学年による鼓笛パレードのための金管楽器の指導を、守谷高校の郷先生はじめ、金管楽器演奏経験のある保護者に協力を求め、昼休みや放課後に練習を行ってきた。ボランティアとしての協力者数は12名であった。

イ 家庭科実習の補助

5・6年生の家庭科にけるミシン指導、調理実習の補助として10名の方が協力してくれた。初めて使うミシンの指導は、担任だけでは目が行き届かない部分もある。ボランティアとして保護者の方についていただくことで、児童は、わからない時にはすぐ聞けて作業に集中することができた。

ウ 校外学習の引率

2年生の生活科「町たんけん」では、地域にあるお店についてグループごとに訪問して質問したり、見学して調べたりする活動を行った。複数のグループに分かれたため、担任教師だけでは引率ができなかったため、保護者の方に協力をお願いした。

エ 読み聞かせ

6名の保護者・地域の方に、朝の学びの時間（10分間）に読み聞かせをしていただいた。全学級毎月1回以上実施し、豊かな心を育むための一助とすることができた。

オ 総合的な学習の時間（キャリア教育）

3年総合的な学習の時間では、守谷で働く人について調べを進め、守谷市内で実際に働いている地域の方



や保護者の方6名をゲストティーチャーとしてお招きし、お話を聞く活動をした。仕事のやりがいや苦勞、自分の夢を実現するために今しっかり勉強することの大切さを教わった。

(2) キャリア教育講演会 (PTA と協力し実施)

夢や希望に向かって努力している方々から直接話を聞いたり、ディスカッションしたりすることで、自分の将来に対する夢や希望をもつきっかけづくりとして、5・6年生対象に講演会を実施した。PTA 役員等の協力で3名の若手経営者を講師に迎え、熱のこもった話し合いが展開された。



(3) 地域との交流

① 「元気サロン御所ヶ丘」の高齢者との交流

児童は「地域に暮し、地域で育つ」ものである。地域との関わりを抜きにしては子どもたちの成長は考えられない。3年生児童は、校舎併設の「元気サロン御所ヶ丘」の方々に、昔の暮らしについてお話を伺う活動をした。核家族化が進んでいる中、高齢者との交流は豊かな心をはぐくむうえで貴重な体験となった。

② 北守谷祭り

8月17日(土)は地域のお祭り「北守谷祭り」があった。4年生がキッズソーラン踊りを披露し、地域の方々から拍手喝采を浴びた。児童一人一人、大きな達成感・充実感を得ることができた。



(4) 保幼小中高一貫教育の取り組みとして

① 「二三ヶ丘幼稚園」との交流

1年生の生活科学習で、幼稚園生を招待して交流活動をした。自作のおもちゃを使った遊びを通して人と関わることの楽しさを感じ取ることができた。

② 御所ヶ丘中学校との交流

月初めのあいさつ運動や卒業生の母校訪問、学びの広場への協力、英語教師による出前授業など、一貫教育を意識した取組を高学年中心に進めてきた。



3 考察

学校生活に関する児童アンケートによると、「学校が楽しい」87.3%、「人には優しく、みんなと協力して仲よく生活している」あてはまる90.7%（とても56.1%、やや34.6%）であった。保護者アンケートでは、「学校は専門家や保護者、地域の人材を進んで活用しようとしている」あてはまる96.8%（とても48.7%、やや48.1%）であった。保護者や地域の人材を積極的に活用し協力を得ることは、開かれた学校づくりにつながるとともに、ひいては児童一人一人の良さを引き出し、豊かな心を育むことにつながっていくのだと再確認することができた。

4 課題

本当の「児童主役」の教育活動を実現するためには、さらにきめ細かな支援体制を整えることが大切である。今後は、効果的に保護者や地域の教育資源を活用できるよう教育活動内容を見直していくことが必要である。

言語活動を充実し、思考力・判断力・表現力を育てる指導の工夫

守谷市立郷州小学校

1 はじめに

本校では、「夢と生きる力をもつ、心豊かな児童の育成」という教育目標の具現化に向け、「学力の向上」「好ましい人間関係づくり」「体力の向上、計画的・継続的な健康教育の推進」を努力目標として、日々の教育活動を行っている。昨年度より市教育委員会の委嘱を受け、本年度は「言語活動を充実し、思考力・判断力・表現力を育てる指導の工夫～書くこと、伝え合うことを中核として」を研究主題に設定し、国語科を中心とした各教科・領域における指導法の工夫・改善及び児童を取り巻く環境の整備を行ってきた。

2 研究のねらい

- 各教科・領域において言語活動を充実させ、「書くこと」や「伝え合うこと」を学習の中核にした授業展開を通して、思考力、判断力、表現力を育てる指導の在り方を究明する。

3 本年度の主な実践

(1) 豊かな語彙力を育てる手立て

① 効果的に言語に触れる環境の整備

教室や廊下、階段の踊り場などに「言葉の広場」「季節の童謡」などを掲示し、言語に触れる環境を作ることにより、児童の言語活動への興味を喚起し、語彙の充実につながるようにした。また、低学年は「今月の音読」で古文や言葉遊びに触れさせるとともに、地域のボランティアの方々による毎月1回の読み聞かせの時間を設けた。高学年は「今月の短歌」で毎月2首の短歌を覚えさせることで、言語に触れる機会を保つようにした。



朝の読み聞かせ

② 辞書引き学習

児童の思考力・判断力・表現力を養い、自ら学ぼうとする意欲を高めるとともに、学習の支えとなる豊かな語彙力を育てるために、3年生以上の児童には、各自、国語辞典を持たせ、国語の学習を中心として活用している。

③ 語彙力を高めるための手立て（GOGOタイム）

2週間に1回、朝自習の10分間で、学年の発達段階に応じた言語活動に関するワークシートに取り組みせ、語彙を増やしたり、活用する力を育んだりした。



1年GOGOタイム

(2) 書く力を育てるための手立て

① ノートの使い方の指導

国語科・算数科を中心に、日付を書く、学習問題（課題）は青枠で囲む、まとめは赤枠で囲むなど、書き方を統一し、書きやすい分かりやすいノートの使い方を徹底した。

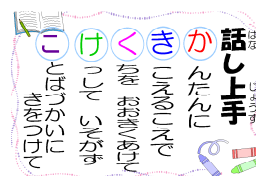
② 書く活動の重視

各教科等の授業で、自らの考えや感想などを書くことに慣れるよう、自分の考えや分かったこと、振り返りや自己評価などを書く活動を意図的に取り入れた。

(3) 伝え合う力を育てるための手立て

① 「話し上手のかきくけこ」「聞き上手のあいいうえお」「声のものさし」の掲示

各学級において、発表形態に応じて相手意識をもって発表したり、友達の意見を聞いたりするために、意見発表の場面で話し手と聞き手が意識するポイントをアクロスティック表にまとめた。また、話し手が聞き手との距離の違いを意識して、声の大きさを調節できるよう、4段階で調節するように示した。



② 学級活動や道徳の時間を活用したコミュニケーショントレーニング

児童相互の人間関係の充実がコミュニケーションの活性化につながると考え、学級活動や道徳の時間を活用して、グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニングを行うよう心がけた。

③ 「話し合いのてびき」の活用

各教科等におけるペア・グループ学習や学級会活動での話し合いの充実を図るために、「ペア学習の進め方」「グループ学習の進め方」「話し合いの進め方」「話し合いのてびき」等を作成し、活用した。

(4) 学習スキルの振り返り

「話す」「聞く」「話し合う」「書く」「読む」の5項目で学習スキルを身に付けられたかどうか、児童一人一人が自己評価するためのスキル表を作成し、学期に1度、振り返るようにした。また、各担任も、学級の児童が「ことばを表す力（表現力）」「ことばを受け取る力（論理的思考力）」「気持ちをすりあわせる力（人間関係形成能力）」を身に付けられたか

『ことばの力』系統表』を用いて、学期に1度達成状況を振り返るようにした。

(5) 各学年及び各教科等における言語活動を重視した授業実践

各担任が、各教科等において言語活動を重視し、授業展開の中に意図的に言語活動を取り入れるように心がけた。また、提案授業やその後の研究協議を通して、テーマに迫るための指導法の工夫や、指導力の向上を図った。指導案の中には「言語活動とのかかわり」「主な言語活動」を明記し、言語活動の充実を図るようにした。これらの授業以外にも、日々の授業実践の中で、意図的に言語活動を位置付け、思考力・判断力・表現力の育成に努めた。



6年英語インタビューゲーム

【各教科等・各学年における実践例】

教科等	学年	言語活動の特色事例	単元・題材名
国語	3年	ペアや学級全体で意見を交流する。本時に学んだことや考えたこと、思ったことをノートに書く。	物語のあらすじを考えながら読もう
	4年	完成した連詩の作品を読んで、自分や友達の言葉の良さについて感想を伝え合う。	連詩に挑戦しよう
	6年 (知的)	自分で見付け、調べた外来語とその言葉がどこの国の言葉かを発表し合う。	言葉の由来に関心をもとう
社会	4年	自分の調べたい事柄を書いた短冊を、友達と理由を述べて伝え合い、意見交換を行う。	ごみと住みよい暮らし
算数	6年	もとの図形と同じに見える理由や、同じに見えない理由を分かりやすく説明する。	拡大図と縮図
	4年 (情緒)	自分の考えを式と図で対応しながら分かりやすく説明する。また、友達の考えをしっかりと聞く。	面積
理科	5年	本時の学習を通して分かったことを発表したり、文にまとめたりする。	人の誕生
生活	2年	一人一人が考えた今後の野菜の成長や必要な世話をグループ内で出し合い、みんなの考えをまとめる。	野菜を育てよう
音楽	2年	曲の場面の様子を身体表現や考えをもとに言葉で伝えていく。	様子を思い浮かべよう
図画工作	1年	自分たちのテーマからイメージを膨らませ、町に必要な物や工夫したいことなどを話し合いながら作品をつくる。	夢の町3丁目
体育	5年	友達の演技を見てアドバイスしたり、自分が考えた技のポイントを言葉にして表したりする。	マット運動
道徳	3年	読み物の主人公が取ると思われる行動の2つの場合をウェビングして、ワークシートに自分だったらどうするかを書き、グループや全体で話し合う。	正直な心
外国語・英語活動	6年	A L T に紹介したいと思う自分のお気に入りの場所について伝え合う。	自分たちの地域や学校を紹介しよう
特別活動(学活)	1年	話し合いカードに事前に書いた自分の意見をもとに、自分の考えをはっきり発表する。	「お誕生日会」でやることを決めよう

4 成果と今後の課題

(1) 成果

① 児童の変容（児童を対象とするアンケートの結果）

- ・「自分の思いや考えを、話したり説明したりすることができる」と答えた児童が増えている。各教科において話すことや説明することなど、表現の機会を増やしたことで、相手意識をもって「話す・説明する」技術が高まってきていることが分かる。
- ・「友だちや先生の話に黙って最後まで聞いている」「友だちの意見を自分の考えと比べながら聞いている」と答えた児童が増えている。ただ聞くだけではなく、まず自分の考えをもち、比較しながら聞くということを意識するようになってきたといえる。
- ・「自分の思ったことをすらすらと書ける」と答えた児童が増加した。書く活動を充実させてきた結果、書くことに抵抗が少なくなっていることがうかがわれる。

② 教師の変容

- ・各担任が、毎時間の授業の中に「書くこと」「伝え合うこと」を盛り込もうと、記録、要約、説明、論述などの活動を位置付けた授業を展開し、それを継続したことにより、各教科・領域の授業内容が充実した。

(2) 課題

- ・学力調査等の結果から、「問題文の意味がわからない」「書いてある内容が読み取れないために、要約できない」児童が少なくない。国語の「読む力」を育成する必要がある。「読む・書く・聞く・話す」をバランスよく育成していく手立てを整えたい。
- ・全教科・領域において、各学年各教科で十分な言語活動を行っていききたい。

自分の思いや考えを表現できる児童の育成 ～国語科の指導を中心として～

守谷市立松前台小学校

1 はじめに

本校では、「各教科領域において、文章や資料を正しく読み取り、自分の考えを表現できる児童を育てる」という組織目標の具現化に向け、「分かる授業の展開」「学習意欲の高まる授業」「問題ができる授業」を努力目標に教育活動に取り組んでいる。本年度は市教育委員会の指定を受け、「自分の思いや考えを表現できる児童の育成」を研究主題に設定し、国語科における「読むこと」の領域の中でも説明的な文章の指導を中心に研究を進めてきた。

2 研究テーマ設定の理由について

本校の児童は、各種学力調査の結果や授業の様子をみると、文章の読み取りや自分の考えを表現することに課題がある。このことから、文章や資料を正しく読み取る力、自分の考えを書いたり話したりする力、互いの考えを伝え合う力を身に付けさせる必要があると考えた。そのために、国語科の中でも各教科や実生活において触れる機会が多い説明的な文章の読み取りに重点をおき、読み取ったことをもとに目的や場に応じて適切に表現できる児童の育成を目指し、本テーマを設定した。

3 研究の仮説

説明的な文章の指導において、身に付けさせたい力を明確にした単元を貫く言語活動を充実させた授業を工夫すれば、児童自身が目的や必要性を実感して主体的に読み、自分の考えを書いたり話したりする力が向上するであろう。

4 本年度の実践

(1) 外部講師を招いての研修

「単元を貫く言語活動を位置づけた国語科授業づくり」というテーマで茨城県教育研修センターの指導主事を招いて理論研修を行った。

(2) 各単元における「身に付けさせたい力」の整理

単元を貫く言語活動を位置づけた授業を組み立てる上で、重要とされることの一つに「身に付けさせたい力を明確にする」がある。身に付けさせたい力とは国語科の指導事項であるが、本校では、指導事項を重点化し、「読み取る力」と「表現する力」において単元レベルまでかみ砕いた具体的な形で示した。

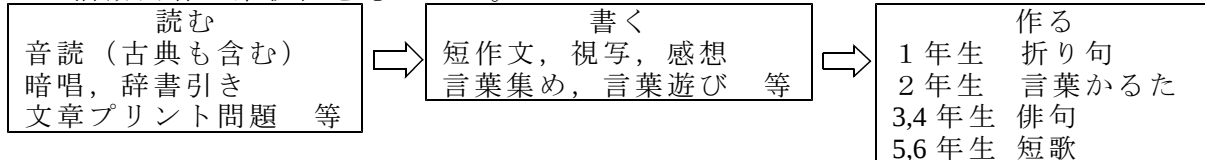
(3) 交流時間の充実

まずは、経験を積み重ねていくことが大切であると考え、ペアやグループでの交流時間を学習の中に意図的に位置づけ、互いの考えのよさを認め合ったり、改善すべき点を助言し合ったりする等、目的をもって行うように心がけた。

(4) 言葉の力の育成

① えんぴつタイム（水曜日の朝自習）

活動内容に系統性をもたせた。



② 国語辞典の活用

(5) 校内の環境の整備

ことわざや格言、詩、故事成語、四字熟語、児童の作品などを昇降口のラウンジや階段踊り場の掲示板を使って掲示した。目に触れさせることで児童の興味を喚起し、語彙力の向上にもつながると考えた。

(6) 校内授業研究

① 第1学年の実践

単元名 「のりものずかん」をつくって1くみのともだちによんでもらおう
—— いろいろなふね ——

〈身に付けさせたい力〉

読み取る力

- ・ 事柄の順序や基本的な文型に気付きながら，内容を正しく読む。
- ・ 知りたい乗り物について調べるために，本を読む。

表現する力

- ・ 好きな乗り物についての本を読み，基本的な文型を使って説明する文章を書くことができる。



② 第3学年の実践

単元名 「はたらく犬ふしぎ発見ブック」をつくって2年生にしょうかいしよう
—— もうどう犬の訓練 ——

〈身に付けさせたい力〉

読み取る力

- ・ 大事な言葉や文を押さえて，内容を短くまとめて読む。
- ・ 知りたい事柄について調べるために，関連する図書を活用して読む。

表現する力

- ・ 調べて分かったことを整理し，大事な言葉や文を落とさないように短くまとめて書くことができる。



③ 第6学年の実践

単元名 未来に生かす自然エネルギーについての提言をまとめよう
—— 未来に生かす自然エネルギー ——

〈身に付けさせたい力〉

読み取る力

- ・ 事実と感想，意見等の関係を押さえながら読む。
- ・ 自分の考えをもつために，必要な内容を押さえて要旨を捉える。

表現する力

- ・ 自分の考えの根拠となる事実を表す図表やグラフを用いて，自分の思ったことや考えたことが説得力をもって伝わるように表現する。



5 成果と今後の課題

(1) 成果

- ・ 理論研修を行ったり，低・中・高のブロックで指導案の検討を行ったことにより，単元を貫く言語活動への理解が深まり授業の改善につながった。
- ・ 国語科の学習についての意識調査から，文章を書くのが好きな児童が7割を超え，自分の思いや考えを理由が分かるように書こうと意識する児童も増えている。
- ・ 身に付けさせたい力を明確にすることにより，系統性をもたせながらポイントを絞って授業をすることができた。

(2) 課題

- ・ 何のために交流するのか，交流の目的を明確にしないと深まりや広がりがない。今後，話型等を児童に提示していく必要もある。
- ・ 国語科の学習についての意識調査（書くこと・話し合い・ノート作り・読書等の項目）の結果から，数値の低かった項目について手立てを講じていきたい。
- ・ ノートの使い方について確認をしたので，積極的にノート展を開き，児童が互いに学ぶ場をつくっていきたい。

特色ある学校づくり推進事業

守谷市立松ヶ丘小学校

1 はじめに

本校では、「豊かな心をもち健康で自ら課題を見つけて学習したくましく生きる児童を育てる。」の学校教育目標の達成のために、「確かな学力を身につけさせる教育」・「豊かな心をはぐくむ教育」・「健康や体力をはぐくむ教育」・「社会の変化に適応に対応できる教育」・「自立と社会参加を目指す特別支援教育」を教育推進の重点事項とし、特色ある学校づくり、地域で支える学校づくり推進事業を受け教育活動を展開してきた。

学校教育目標

豊かな心をもち 健康で自ら課題を見つけ学習し、たくましく生きる児童を育てる

すすんで

学習する子

- ・ 目標をもって学習に取り組み、最後までやりぬく子

やさしく思いやり

のある子

- ・ 互いに認め励まし合える子

明るく

たくましい子

- ・ 運動に親しみ元気でねばり強い子

2 実践

(1) 確かな学力を身に付けさせる教育(各教科における授業研究)

研究テーマを「自ら考えをもち、互いに学び合うことができる児童の育成」とし各教科における言語活動の充実をめざした授業づくりを進めてきた。また、一人1回の研究授業を行い、授業力向上にも努めてきた。特に、算数では学習のきまりを見直し、ノートの使い方や振り返りを必ず行うことなどを統一した。言語活動の充実については、どのような活動をしてどのような力をつけていくのかを指導案検討で十分に話し合い研修を深めた。



5年2組(算数科授業)



6年2組(社会科授業)



6年3組(算数科授業)

(2) スマイルタイムの実施(児童と向き合う時間の確保)

水曜日、木曜日、金曜日をスマイルタイムとして、学年での集団下校をなくし、自由に近くの友達と下校できるようにし、児童と向き合う時間を確保した。

ア 補充的な学習の実施

学年や学級で放課後を利用して補充的な学習を進めた。特に算数の計算や宿題等でつまづいているところの学習を行った。

イ 教育相談の実施

いじめに関する生活アンケートを月1回実施した。アンケートをもとに児童と面談をする機会をつくり児童理解につなげた。

ア パトロールの強化

スマイルタイム実施後の安全確保については、昨年度からやさしく見守り隊を結成し、登下校の安全を地域の方々に協力している。職員による放課後の巡視も計画的に行い安全確保に心がけた。

(3) 健康や体力をはぐくむ教育の推進

体育の授業を充実させ体力向上を図るために準備運動の中に主運動に関係する補助的な運動を継続的に取り入れることで体力向上につなげた。また、1週間に3回程度は1時間の遊びや運動を取り入れるという県の方針を受け、業間休みを体力向上づくりの時間として年間を通して月曜日、火曜日、金曜日に持久走や縄跳びを実施してきた。さらに、高学年を中心に始業前に持久走を行い運動に親しむとともに体力向上につなげた。また、今年度はけやき台中の体育教師による乗り入れ授業をしていただき専門的な知識と技能を学ぶことができた。



業間の体力向上(長なわとび)

(4) 自立と社会参加を目指す特別支援教育

ア 児童支援委員会の充実

児童支援委員会の充実を個別に支援が必要とされる児童の共通理解を図った。特に個別に支援が必要な児童については全職員で組織的に対応ができるようになった。

イ 事例検討会の充実

事例検討会として二次的障害を含めた特別支援教育についての研修会を行い、教職員の特別支援教育への意識改革を図った。



校内研修(特別支援教育)

(5) 地域で支える学校づくり推進事業

ア 学習ボランティアを活用した授業づくり

- 1年：長縄跳びの補助
- 2年：探検グループの見守り
- 3年：道探検での各グループの引率
- 4年：百人一首の読み手
- 5年：手縫いの仕方の補助
- 6年：ミシンの使い方

以上の計画で保護者の方々に協力していただきながら学習を進めた。

イ 保護者、やさしく見守り隊、教職員による

登下校時の安全確保

- ・保護者による通学路にある信号機、横断歩道、危険物等の安全点検の実施を行い児童が安全に登下校できるようにした。
- ・やさしく見守り隊の方々に、登下校時に児童を見守っていただくことにより不審者や交通事故等に気をつける意識が高まったきている。



危険表示(安全点検後)

3 成果と今後の課題

(1) 成果

- ・学力診断のためのテストによる検証では、授業研究の充実により、授業の改善が図られ、どの教科でもプラスの結果が出ている。これは、学校改善プランに沿った取り組みとスマイルタイムでの個別指導が成果となって表れていると考えられる。
- ・外部講師を招いての研修で、ユニバーサルデザインによる授業づくりについて特別支援教育への意識を高めることができた。

(2) 課題

- ・授業研究をさらに進め、授業力向上を図っていきたい。また、言語活動の充実を図り、自分の考えを伝え合うことで、自らの考えや集団の考えを発展させることができるようにさらに研修を深めていきたい。
- ・学習ボランティアに登録している保護者との連携をさらに深め活用場面を広げていきたい。

人間としてのよりよい生き方を見つめる道徳の時間の在り方

一自己を見つめ、道徳的価値の自覚を深める指導法の工夫一

守谷市立守谷中学校

1 はじめに

本校では「知・徳・体が調和し、心身ともに健康な生徒の育成」を教育目標としており、組織目標の中に「豊かな人間性の育成」を目指している。道徳の時間を要とした教育活動全体を通じた道徳教育の充実を図り、豊かな人間関係づくりを育むことに取り組んでいる。今年度は市教育委員会の指定校1年次の指定を受け、研究テーマ「人間としてのよりよい生き方を見つめる道徳の時間の在り方」のもとに校内研修を進め、2年次の発表に向けて道徳の時間の改善、授業力の向上を図ってきた。

2 研究の仮説

自己を見つめ、道徳的価値の自覚を深める指導法の工夫を行えば、生徒は高められた価値観に照らしてこれまでの自己を見つめ、人間としてのよりよい生き方を見いだすことができるであろう。

3 研究の内容

(1) 「人間としてのよりよい生き方を見つめる」とは

「人間としてのよりよい生き方を見つめる」とは、よりよい生き方の指針となり、人間らしいよさを表す道徳的価値を自己と向き合いながら内面的に自覚していくことであると考える。

道徳教育を補充、深化、統合する道徳の時間において、道徳的価値の自覚は以下の3つを通して深められると考えた。

- ・多様な価値観とかかわり合うことで道徳的価値について考え、これまでの自己の価値観を高めること
- ・高められた価値観に照らしてこれまでの自己を見つめること
- ・これからの自分の生き方を考え、自己の課題や希望を見出していくこと

(2) 自己を見つめさせる手だて

- ① 心を揺さぶる資料提示の工夫
- ② 見方や考え方を広げる話し合い活動
- ③ 自己を見つめる発問の工夫
- ④ 生きていく上での課題や希望を見出す「書く」活動

4 実践

(1) 第2学年4組

○主題名 秩序と規律 内容項目4－(1)

○資料名「二通の手紙」

○自己を見つめさせる手だて

- ・導入段階で、実際にあったエピソードを語ることで問題意識を高め、エピソードを終末でも用いることで道徳的価値の変容を自覚させる。資料を前半と後半に分けて提示して、園の規則を破って入園させた源さんが解雇されてしまう現実に向けさせるという心を揺さぶる資料提示の工夫。



- ・園の規則を破って姉弟を入園させた源さんの行動について入園させるべきだったかどうかの立場に分かれて話し合う。その際、ネームカードを活用して、自分の意見を明確にするとともに、他者の価値観と自分の価値観を比較させる見方や考え方を広げる話し合い活動。

(2) 第3学年1組

○主題名 父母への敬愛の念 内容項目 4- (6)

○資料名 「母よりの年賀状」

○自己を見つめさせる手だて

- ・ 意思表示カードの活用による全員参加型の授業展開と口を効かなくなった「わたし」の行動について同情できる、できないという立場を明確にした話し合い活動。
- ・ 資料を前半と後半に分け、生徒の道徳的価値を深める資料提示の工夫。

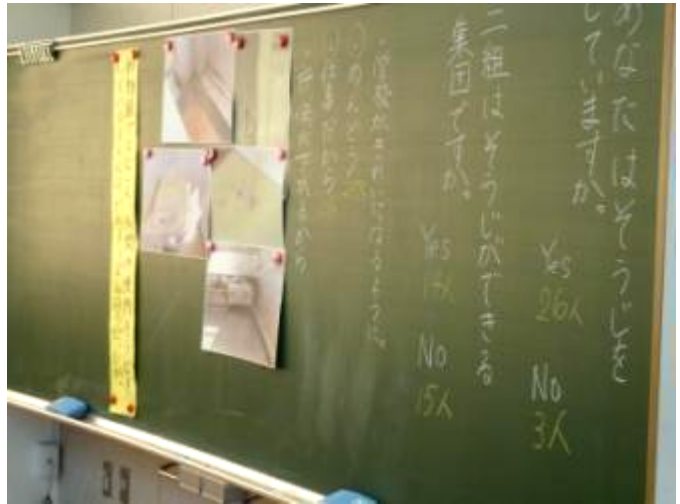
(3) 第1学年2組

○主題名 勤労と社会奉仕 内容項目 4- (5)

○資料名 「ぼくの仕事は便所そうじ」

○自己を見つめさせる手だて

- ・ 導入段階で、校舎内でごみが溜まっている写真や清掃活動のアンケートを提示して問題意識を高めるための資料提示の工夫。
- ・ 「そうじをする」というこれまでの道徳的価値について、清掃活動という具体場面で道徳的価値を捉え直し、自己を見つめるための発問。



(発問) 自分が掃除をすることで、周りにどのような影響があるだろう。

(4) 第1学年1組

○主題名 思いやりの心 2- (2)

○資料名 「エルトゥールル号の避難」

○自己を見つめさせる手だて

- ・ ICT機器を利用した視覚に訴える資料提示の工夫。
- ・ これから生きていく上での課題や希望を具体的に見出す終末過程での「書く」活動。

5 成果

- (1) ICT機器や写真資料を活用した視覚に訴える資料提示の工夫によって、生徒が真剣に道徳の時間に取り組み、これまでの自己を見つめるようになった。
- (2) ネームカードや意思表示カードを用いた話し合い活動により、自分の意見を明確にししながら他者の意見を聞くことで、多様な価値観とかかわり合うことで道徳的価値を高めることができた。

6 今後の課題

- (1) 話し合い活動で意見をたくさん発表させることができたが、さらに自己を見つめ、道徳的価値を高めるための発問の工夫と検証が必要である。
- (2) 「書く」活動における時間の配分やタイミング、さらにワークシートの改善が必要である。

特色ある取組み ～校内研修を通して～

1 研究主題

生徒一人一人の学力向上を目指す指導方法の工夫
～学び合う学習集団を育てるための取り組みを通して～

2 主題設定の理由

文部科学省は、全国学力・学習状況調査や OECD の PISA 調査など各種の調査結果から、我が国の児童生徒が抱える課題の 1 つに「思考力・判断力・表現力等を問う読解力や記述式問題、知識・技能を活用する問題」を挙げている。これは、本校生徒にも当てはまることである。一例として、昨年度の全国学力・学習状況調査「国語 B：主として活用」の書く問題において、次のような結果がでている。

設問番号	出題主旨	全国	本校
1－三	相手の発言に注意して聞き、自分の考えを書くことができるかどうかをみる。	20.6%	22.0%
2－三	資料に書かれている情報の中から必要な内容を選び、伝えたい事柄が明確に伝わるように書くことができるかどうかをみる。	64.8%	71.0%
3－三	物語の内容や登場人物の言動の意味などを捉え、自分の考えを書くことができるかどうかをみる。	60.4%	50%

ここからは、設問「1－三」や「3－三」のように「自分の考えをまとめる」問題の正答率が低いことが分かる。これは、上記で述べた思考力・判断力・表現力の不足が根底にあるためだと考える。

では、生徒の思考力・判断力・表現力を向上させるために我々教師は、どのような指導をしていけばよいのだろうか。これらの能力の向上には、言語活動の充実は不可欠である。そのためには、生徒が授業の中で習得した事柄を活用する場、言語活動を行う場を意識的に設定していくことが必要である。これは、本校の組織目標にもある「互いに認め合い学び合える学習集団」の育成にも繋がる活動であると考え。生徒同士が自分の思いや考えを述べ合い、教え合うことで学びが広がり、個々の思考力・判断力・表現力の向上に繋がっていくであろうと考える。

生徒の「学び」に焦点を当てた研究の実践が各地で行われている。本校では、先行研究に学びながら、本校生徒の実態に合った学び合いのスタイルを確立していきたいと考える。授業の中で学び合う場を意図的に設定することで、生徒は自らの課題を明確に捉えたり、活用の仕方や条件を共通理解したりすることができる。それが学び合う集団をより質の高いものにしていき、組織目標の具現化につながるだろう。我々教師がどのような指導方法の工夫をすれば、学び合う集団を育てることができるのかを研究し、本校生徒の思考力・判断力・表現力の向上、ひいては一人一人の学力向上を目指していきたいと考え、本主題を設定した。

3 主な研究の経過

月	日	研修内容
5	25	本年度の研究主題の確認・研究計画の検討
6	3	本年度の研究主題について（本校の生徒の実態の確認と課題の共通理解） 評定について 道徳研修伝達
	12	学力向上推進チーム訪問〔国語科〕（授業参観 ワークショップ 全体会）
	25	外部講師招聘による校内研修（授業参観 全体会）
8	12	「学び合い」に関する講話や研修に参加 「茨城 学びの会」夏のセミナーに参加
	19	スクールカウンセラー研修
	23	特別支援教育について＜伝達研修＞ 1 学期・夏休み期間中の研修報告①
	30	1 学期・夏休み期間中の研修報告②
9	20	学力向上実践協力校授業発表会〔国語科〕 本市、つくば市、つくばみらい市、取手市、北相馬郡より 35 名参観 （授業参観 全体会）
10	3	総合連携訪問〔数学科における授業研究〕 （授業参観 ワークショップ 全体会）
	8	外部講師招聘による校内研修（授業参観 グループ協議 全体会）
11	11	指導案作成について
	25	計画訪問
12	5	学力向上推進チーム訪問〔国語科〕 （授業参観 ワークショップ 全体会）

1	7	教育課程検討委員会での課題設定・役割分担等
2	3	本年度校内研修の成果と課題 来年度の研修の方向性の検討
3	3	教育課程検討委員会からの提案（次年度の内容計画等）

*上記の研修以外に1人1授業研究（授業公開）を行った。

4 実践事例（学力向上実践協力校授業発表会）

【第3学年授業研究『茨城県の観光ポスターを批評しよう』9月20日（金）、3年2組】

(1) 本時の目標（第3時／6時間扱い）

観光ポスターにとって重要だと考えられる観点を設定し、その観点に従い3種のポスターを比較することを通して、根拠を明確にして自分の判断を下すことができる。

(2) 本時の展開



学習活動・内容	指導上の留意点・評価
1 本時の学習課題・学習の手順を把握する。 自分の「一押しポスター」を決め、その判断の根拠を説明しよう。	・学習課題を黒板に示し、生徒一人一人の学習準備を確認する。（ポスター資料、ワークシート①②、教科書、ノート、筆記用具） ・ワークシート②を書画カメラで拡大投影し、本時の学習の手順を確認する。
2 「一押しポスター」の判断のポイントを確かめ、自分の「一押しポスター」を決定する。 (1) ポスターにとって重要だと思うことを観点として決める。 <考えられる観定の例> ・ものの打破 ・茨城のイッパツ ・観光資源の紹介 ・目をひくデザイン ・いか外あるイカ外 ・美しい写真や絵 ・興味をもつ表現(文章、キャラクター) (2) 前時に記録した観察・分析の結果を(1)の観点に沿って比較し、「一押しポスター」を決める。 <ワークシート②表面1の内容> a 「一押しポスター」の記号 b 自分が決めた観点（一つ〜三つ） c 他と比較して、「一押し」にした根拠	・どういう観点で判断するのが重要であるかということ、教科書 p143の下段をプロジェクターで投影して確認させる。また、前時に使用したワークシート①を参照させ、自分がどのような点に着目して観察・分析をしたか振り返らせる。 ・観点設定のための参考資料として、①ホームページ上の「いばらき観光ポスター with 筑波大生」プロジェクト紹介部分、②県が観光ポスター制作に関して行っている「公募型プロポーザルに関する公告」の「企画提案内容を特定するための評価項目」の二つを印刷して配付する。 ・ワークシート②に、「観点」並びに「一押しにした根拠」を書き出させることで、学習活動3がスムーズに進められるようにする。 ・それぞれのポスターは異なった特徴をもっているが、観光ポスターとして自分が重視すべきだと考えている観点から判断するようにさせる。 ・観点を決めかねている生徒には、参考資料から観点を探そう助言する。 ・生徒の学習状況を観察して、学習活動3のグループにするタイミングを計る。
3 グループになり、どんな観点でどのような根拠を基に判断し「一押しポスター」を選んだのかを交流し合う。 <注意点> a 友達の発表に疑問や説明不足があると思ったら、ワークシート②裏面にメモし、発表後に質問したり意見を述べたりする。→友達も批評文を書く際、参考にできる。 b 自分の発表に対する友達の意見で参考になることは、ワークシート②表面2に記録する。	・グループになり、時計回りに発表させる。また、一人の発表が終わる毎に、その内容について交流するよう指示する。 ・交流の際の注意点については、プロジェクターで投影しておくことで、生徒がいつでも参照できるようにする。 ・2年「反対意見を想定して書こう」で学んだ、「根拠を具体的にすること」や「他の立場への反論を盛り込むこと」が、自分の意見を効果的に伝えることを想起させる。
4 交流の結果を参考にして再度考え直し、自分の「一押しポスター」を最終決定する。 <考えられる生徒の反応> ・友達の意見を聞いたら〇〇〇〇〇〇の観点が大切だと思った。そうすると☆のポスターが良いかな。 ・やはり〇のポスターが良いと思うが、友達と言った②③④⑤の点について根拠を述べた方が良さそうだ。	・交流の結果、自分一人だけで判断した時の観点や、分析・根拠より、考えが広がった点をワークシート②に記録させる。 ・参考になる数点のワークシートを書画カメラで拡大投影する。 (評) 観光ポスターにとって重要だと考えられる観点を設定し、それに基づき根拠を明確にして自分の判断を下している。 【書く能力1（観察・ワークシート②）】
5 本時の活動を振り返り、次時の学習内容を確認する。	・本時の学習活動3で交流して、学んだことを振り返らせる。 ・次時は、実際に批評文を書くことを予告する。

5 成果と課題

(1) 成果

- 「学び合う学習集団」の育成を目指し、組織的に校内研修や授業研究に取り組むことができた。講師招聘による校内研修や授業公開を行ったことで、各教科において「学び合い」を意識した指導計画や授業展開を立て、実践することができた。
- 全学年で「学び合い」の手法を授業に取り入れたことにより、生徒同士の意見交流や教え合いが活発になり、生徒の思考力・判断力・表現力の向上につながってきた。

(2) 課題

- 本年度「学び合い」の手法を取り入れ各教科で実践してきたことにより、課題提示や時間設定、評価の仕方など課題も山積している。生徒のためにより効果的な学び合いの形態を研究し、「学び合いの愛宕スタイル」を創っていきたい。

インクルーシブ教育システム構築に向けた取り組み

守谷市立御所ヶ丘中学校

1 はじめに

近年における特別支援教育にかかわる動向としては、それを取り巻く法律の影響でめまぐるしく変化している。(下記の通り)

・学習障害児に対する指導について（報告） 平成11年7月	「発達障害者支援法」 平成17年4月1日施行
・21世紀の特殊教育の在り方について ～一人一人のニーズに応じた特別な支援の 在り方について～ 平成13年1月	○障害者の権利に関する条約 平成18年12月 国連採択 平成19年9月28日 日本は署名のみ
・今後の特別支援教育の在り方について （最終報告） 平成15年3月	平成26年1月20日 批准 平成26年2月19日 発効
・特別支援教育を推進するための制度の在り方について（答申） 平成17年12月	「改正障害者基本法」 平成23年8月5日
・共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育 システム構築のための特別支援教育の推進（報告） 平成24年7月	「障害を理由とする差別の解消の 推進に関する法律」 (障害者差別解消法) 平成25年6月19日成立

このことを受け文部科学省では、インクルーシブ教育のシステムをできるだけ早く構築する必要性が生じ、モデル事業を開始した。

御所ヶ丘中学校区では、このモデル事業を受け、スクールクラスターの観点からインクルーシブ教育システム構築に必要な、基礎的環境整備の確認とそれに基づいた合理的配慮の効果についての検証を行った。

2 実践

(1) 基礎的環境整備の確認

基礎的環境とは、支援を要する生徒に対してどのような配慮（支援）を可能とするか、そのベース（基礎）となるものである。御所ヶ丘中学校区では、次の①～⑧について校内のものと地域のを一緒にして、どんなものがあるか確認した。

- ① ネットワークの形成・連続性のある多様な学びの場
- ② 専門性のある指導体制の確保
- ③ 個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成による指導
- ④ 教材の確保
- ⑤ 施設・設備の整備
- ⑥ 専門性のある教員、支援員等の人的配置
- ⑦ 個に応じた指導や学びの場の設定等による特別な指導
- ⑧ 交流及び協同学習の推進

(2) 合理的配慮の効果の検証

合理的配慮とは、その自治体・学校・指導者が無理なく効果的に、支援を必要とする個人一人一人に対して行う配慮のことである。

今までも指導者の工夫で、ワークシートを用いて視写を軽減したり学習ポイントを絞ったり、自分で目標を決めさせ活動内容を設定したりするなどしてきた。

本校でも、次のような配慮をしている。

- ① 板書視写の苦手な生徒に対するワークシート活用
- ② 視覚優位の生徒に対する電子黒板を用いての授業
- ③ 課題の量の軽減を通して、学習に対する心理的不安の排除
- ④ 気軽に話せるグループによる学び合い活動の設定
- ⑤ 机間指導による声かけを通しての集中力の持続
- ⑥ 学習室での活動を通して、気持ちの安定を図る。
- ⑦ 学級担任による配慮した座席決め
- ⑧ 部活動での励まし
- ⑨ 適応指導教室への通室による気持ちの切り替え
- ⑩ 学習の見通しがもてるよう、学習の進め方のルールを決める。
(ユニバーサルデザインを取り入れた授業の展開)
- ⑪ 本人や保護者との面談を通して、自己認識を高め意欲をもたせる。



3 考察

合理的配慮をすることで、学習者は安心して学校に登校でき、授業にも集中して取り組み、少しずつ意欲も出てきた。また、御所ヶ丘学校区4小中学校で共同で行うことで、インクルーシブ教育について共通の認識をもつことができ、学校の周囲にいろいろな施設・設備、人材等が存在することを知ることができた。このとき、第三者的な立場からいろいろな面で支援をいただく合理的配慮協力員からのアドバイスにより、より生徒に合った指導を行うことができた。今後も、合理的配慮協力員のような存在が必要である。



4 今後の課題

今年は、各学年1名に絞って行ったが、この教育をすすめるにあたっては、「特別な支援」という認識で敬遠されがちであった。まだよく知られていないので、今後は保護者や本人との面談を積極的に行ったり、合理的配慮と言った支援法の存在を保護者に知らせたりする必要がある。また、ユニバーサルデザインを取り入れた授業を進め、その他の生徒にも有効な配慮を考えていかなければならない。

これからの学習は、本人や保護者がどんな希望をもっているか、その実現に対してどんな手立てがあるか、学校・家庭・地域が手を取り合って考えてすすめていかなければならないと考える。

利用しなかった施設・設備についても、点検を怠らずさらに整備していく必要がある。

家庭・地域社会の教育力を生かした新しい学校づくり

守谷市立けやき台中学校

1 はじめに ―地域で支える学校づくりの基本構想―

地域に信頼される学校であるためには、日々の教育活動を保護者や地域の理解を得ながら進めていくと同時に、学校に対する保護者・地域の思いや願いを十分把握していくことが大切である。また、地域社会には、高い専門性や能力をもつ様々な人材がおり、その専門性や能力を学校の教育活動に取り入れ、適切に生かすことで学校の教育活動が多様化し、教育効果が上がることも期待できる。そして、教育課程の内外で卒業生を含めた多くの地域社会の人たちとかわるることにより、生徒たちは地域の一員として大きく成長するものと考ええる。

本校では、「地域で支える学校づくり」という視点から、次に示す4つの柱で家庭や地域の教育力を学校教育に生かしていくことにした。

- 保護者や地域の方々に学校経営方針や教育内容を示し、理解と協力を得る取組（理解）
- 専門的な知識や技能をもつ地域の方々を、授業や課外活動で有効に活用する取組（支援）
- 地域の方々との交流や体験活動を通して生き方を学び、社会性を身に付ける取組（交流）
- 保護者や地域の方々による学校評価を通して、学校改善を図る取組（改善）

2 実践

(1) 家庭・地域社会の教育力を生かす具体的取組

① 学校経営に理解と協力を得る取組（理解）

ア 学校運営協力員会議（7月、9月、10月、11月、2月に開催）

年度当初の学校経営方針や重点施策の説明だけでなく、学期毎に授業参観や体育祭、文化祭など各種行事への参加も依頼し、その都度給食を摂りながら意見交換や助言を受けける機会を設けた。

イ 民生委員会（6月に開催）

民生委員全員に集まっていただき、学校や生徒の様子について説明するとともに、地域の状況把握や支援を要する家庭への協力依頼等、情報収集と意見交換を行った。

ウ 保護者と校長先生との交流会（6月に開催）

保護者との交流会は数年前から続いている。保護者に校長先生の思いを伝えることを通して、学校への理解と協力を求めるよい機会となっている。

エ 学校自由参観日（11月に開催）

いばらき教育月間である11月の1週間、保護者や地域に向けて自由参観日を設定した。参観者の数は多くはなかったが、感想用紙に授業の様子や学校の環境についてコメントくださった地域の方も見られた。

(2) 専門的な知識や技能を有する外部人材や学習ボランティアを活用する取組（支援）

① 箏の指導（1年生：音楽）

地域に住む箏の指導者を招き、箏についての歴史や文化、実際の取り扱い方や基礎的な演奏法、姿勢等の指導を受けている。初めて箏に触れる生徒にとって、専門家による本物の演奏を目前で体感し、箏の伝統や文化について話を聞く教育的効果は大きいと感じた。

② 元五輪選手による水泳教室（1年生：保健体育）

3大会連続でオリンピックに出場し、入賞している名スイマーによる水泳教室を開催した。ポイントを押さえた指導は、体育教員にとっても大変参考となるものであった。

③ 薬物乱用防止教室（全学年）

7月、地域に住む保護司でありかつ県の薬物乱用防止指導員を務める方を講師に招き実施した。喫煙や飲酒、シンナー、覚醒剤などがどう人体に害を与えるのか、身近な事例から学習し、これからは薬物とかわからない生き方について考えさせた。

④ 家庭科における学習ボランティア（1年生、2年生）

調理や裁縫などの授業で保護者の方に学習ボランティアを依頼した。単位によっては、

安全面や個々の指導時間を確保する上で有効となった。

⑤ 部活指導における外部指導者

本校では、技術指導の面で職員の負担を軽減するために地域の外部指導者を積極的に活用している。今年度は、男女バスケットボール、女子バレーボール、剣道、女子ハンドボール、女子テニスで8名の外部の方が指導に当たっている。

(3) 地域住民から生き方を学び、社会性を身に付ける取組（交流）

① 職業セミナー（2年生）

薬剤師やスタイリスト、通訳、税理士、宇宙開発エンジニア、家業を継ぐ若者など、地域住民や地域で働く多様な職業人を講師に迎え、実際に働く人たちの生の声を聞き、働くことの意義や仕事上の苦労や必要な資格などについて理解を深める機会を設けた。

② 先輩に学ぶ（2年生）

本校を卒業し、現在大学生になっている身近な先輩から、高校選択の決め手や受験時の苦労、高校生活の様子、大学卒業後の夢、後輩に伝えたいことなどの話を聞くことで、自己の進路決定に向け、意識付けを図った。

③ 進路セミナー（3年生）

プロバスケットボール選手でありながら公認会計士としても活躍する青年（土浦日大高卒業）を招き、将来の夢や職業、自らの進路について考える進路セミナーを開催した。中学生の頃からの抱いていたバスケットに対する情熱や様々な挫折を乗り越えてきた意志の強さ、勉強時間を確保する工夫など、生徒にとって身近で胸に響く講演であった。

④ 職場体験学習（2年生）

職場体験学習では、地域の施設や事業所で勤労などの職場体験を通して、様々な職業や職場と自分たちの生活とのかかわりについて理解を深めるとともに、色々な人の生き方や考え方に触れ、自分の生き方を深めることができた。また、社会人との触れ合いを通して、人との接し方やマナーを学ぶとともに、協力・責任等の社会の一員としての適応力（社会性）を養うよい機会になっている。

(4) 学校評価を通して学校改善を図る取組（改善）

① 学校評価

学校評価を実施する前に、学校評価のねらいや考え方・進め方について、校内研修やPTA運営委員会で共通理解を図った。そして、次のような点を確認した。

- ・対象は、教職員、生徒、保護者
- ・教職員は教頭が、生徒は学年が、保護者は教務主任が分析して、成果と課題を明確化
- ・評価結果は保護者に講評すると共に学校関係者評価の資料として活用

② 学校関係者評価

学校運営協力員会を学校関係者評価の評価委員として依頼し、教職員や生徒、保護者のアンケート（自己評価）結果や1年間の学校の取組を踏まえて評価を行った。

③ 学校改善

学校評価や学校関係者評価の結果を基に、学校運営検討委員会の中で全職員が協議し、次年度の学校経営方針や重点施策、数値目標の見直しを図った。

3 おわりに

外部人材の活用では、小学校と比べると学校ボランティアや学習サポーターを活用する機会は少ない。地域社会人講師を活用する場面でも、講師の選定や依頼、事前打合せ、準備などが職員の負担になることもある。外部人材を積極的に活用するためには、地域の協力が円滑に得られるよう、日頃から地域の団体や組織と良好な関係をつくり、学校としての外部人材活用の体制を整備していくことが重要である。

また今後は、家庭や地域の教育力を受容するだけでなく、中学生が地域の一員として地域を支える立場に成長していくためにも、学校が地域に出向き、クリーン活動や公園花壇の整備、老人ホームや一人高齢者宅の訪問、自治会や地区祭りの手伝い、災害時の小学生見守り活動など、中学生が貢献できる地域ボランティア活動を積極的に行っていきたい。